

その名大口

※今年度も「伊佐市明るい選挙推進協議会」及び「伊佐市選挙管理委員会」の協力をもらい、立会演説会と生徒会長選挙(9/27)を実施しました。山下生徒会長をはじめとして3年生は、さまざまに学校を牽引し大口高校生の元気を発信してくれました。1・2年生に学校づくりのバトンが渡されました。小門新生徒会長をみんなで支え、元気な生徒会を創ってください。

旧生徒会長 山下真芳くん

二年間という長い間、生徒会長を務めさせていただきました。本当にありがとうございました。支えてくださった大口高校の先生方、生徒会執行部の先輩方や生徒のみなさんのおかげです。

これまで生徒数の減少にともない、文化祭や夏休み期間中に中学生を招待し大口高校の魅力をアピールしたり、大学の方々と協力して、曾木の滝でのスタンプラリーや「もみじ祭」のプロデュースをしたりと大口高校一丸となって様々な活動をしてきました。活動の中で、大口高校が地域の方々に支えられている、愛されていると感じました。次期生徒会には、大口高校をもっと地域の方々から応援される学校にしてほしいと思います。校内での活動を正しくするのはもちろん、校外でも一人一人が大口高校の看板を背負っているということを意識する必要があります。生徒会を中心にそのような雰囲気を作って欲しいと思います。



最後に、これまでともに執行部として活動してきた大山凌加さん、畠中太勢くん、下山野萌夏さん、益園彩寧さん、千鳥恋さん、大久保響さん、小門真也くん、頼りない生徒会長を最後まで支え続けてくれました。ここには書き尽くせないほどの感謝の言葉しかありません。本当にありがとう。そしてこれまで関わってくださった全ての皆さん、本当にありがとうございました。



旧山下生徒会長の涙に、彼の思いを感じました。個性あふれる旧執行部のみなさん、ありがとう。新執行部は、小門真也くん(会長)、千鳥恋さん・郷原飛由我くん(副会長)、淵之上拓嗣くん・深見梨歩さん(書記)、大久保響さん・周防原朋也くん(会計)、白石大十くん(広報)です。新執行部のみなさんよろしくお願ひします。

新生徒会長 小門真也くん

今回生徒会長になりました小門真也(2-1)です。みなさんに選んでいただいた以上、自分なりに精一杯頑張っていこうと決意を固めているところです。



私は演説でも言いましたが、大口高校を今よりももっと生徒一人一人がキラキラと輝いている学校にしていきたいと考えています。そのために、生徒の皆さんは学校生活において、「主役は自分」という意識を持っていただきたいと思います。生徒それぞれに輝くチャンスは、平等に与えられていると思います。それぞれが、自分の得意な分野で活躍できる機会を設けることで、生徒一人一人の自信につながっていき、輝いた生徒、輝いた大口高校を作っていけるのではと思います。いたらない部分もたくさんあると思いますが、皆さんと協力しながらよりよい大口高校を作っていけるように精一杯頑張っていきたいと思っています。一年間、よろしくお願ひします。

西郷隆盛そして内村鑑三

まず、2018年は明治維新150周年です。2018年のNHK大河ドラマは、「西郷どん」（林真理子原作）に決定しました。タイムリーであり、非常に楽しみです。「天璋院篤姫」以来の鹿児島ブームになること間違いありません。

西郷隆盛の生き方の神髄は、「無私」の生き方です。彼の「敬天愛人」は有名ですが、天と同じように、誰へだてなく愛情を注ぎそして自らを厳しく律し、無私無欲の人であることを西郷は終生心がけたのです（月照との入水自殺で生き残った西郷は天命を自覚。その後は敬天愛人の生き方を実践）。『南州翁遺訓』の「幾たびか辛酸を歴て志始めて堅し、丈夫玉砕して甄全を愧ず。一家の遺事人知るや否や、児孫の為に美田を買わず」、また「命もいらぬ、名もいらぬ、官位も金もいらぬ人は、仕抹に困るもの也。此の仕抹に困る人ならでは、艱難を共にして国家の大業は成し得られぬなり。」は有名です。

内村鑑三は『代表的日本人』を英語で出版（1908年）しますが、代表的日本人の一人が西郷隆盛です。この本は、日本の精神性の深さを世界に知らしめようと英語で出版しました。日清戦争・日露戦争の時期で、日本が世界にのし上がっていく時代です。西欧の人々はキリスト教ではない日本人を低く見ていました。同時期に新渡戸稲造『武士道』（宗教教育のない日本で、道徳教育はどうするのかというベルギー人に対し、新渡戸稲造は日本には武士道があるとします）、岡倉天心の『茶の本』があります。同時期に英語で書かれ、世界に向けて日本人の高邁な精神性を発信したものでした。

私が彼の生き方・その思想に感銘を受けたのは次のことです。その第一高等学校（ナンバースクールで今の東京大学）時に「内村鑑三不敬事件」（教育勅語奉読式において最敬礼をしなかった）が起こります。彼が30歳の時です。国家主義という風潮の中で世間の猛反発をかい、職と社会的信用を失い、



キリスト教会からも見放されるのです。その時、病気（インフルエンザ）に罹り生死をさまよいます。そのどん底の内村鑑三を支え懸命に看病した人がいます。その人は妻の「かず」です。新婚2年目です。ところが彼女はインフルエンザにかかりその年に死ぬのです。妻「かず」の人生はどんな意味があったのでしょうか。その2年後



に『基督信徒のなぐさめ』を出版します。妻「かず」は「真面目」そのものの人生でした。「人生とは業績ではなく、その過程すなわち生きることへの態度においてのみ測られる」と言います。私が以前『夜と霧』のフランクについて話をした、態度価値と一緒です。そして、人間の一生は死んで終わりではなくその精神は受け継がれ、「樹木的成長」を遂げていくと言います。内村は、誰にでも後世に遺すことのできる遺物は、「勇ましい高尚なる生涯」だと言います。その生涯は、後世に語られ受け継がれていくのです。



上写真は、センター試験出願説明会（9/15）。今年度27名が出願しました。19:00までの放課後学習も始まっています。下の2枚は、大口高校の「啐啄同時」。就職試験や推薦入試に向けて、面接練習や小論文指導の一コマです。下の写真は、10



月から赴任になった、大塚誠先生（理科）です。3-1の副担任、バスケット部顧問です。

内村鑑三があげる代表的日本人とは、西郷隆盛、上杉鷹山、中江藤樹、二宮尊徳、日蓮です。彼は、「何人もの藤樹が私どもの教師であり、何人もの鷹山が私どもの封建領主であり、何人もの尊徳が私どもの農業指導者であり、また、何人もの西郷が私どもの政治家でありました」と言っています。みなさんは、この5人をどれくらい知っているのでしょうか。彼らの生涯その精神性は、内村鑑三に大きな影響を与えました。私たちも彼らから学びたいものです。ケネディ大統領は最も尊敬する日本人として上杉鷹山をあげています。それは、『代表的日本人』を読んでいたからです。自分に大きな影響を与えた代表的人物5人を、身近な人を含め考えてみることもおもしろいと思います。